

# コロッセオ 街角

(1)

爪、踵の輪かくまで鮮やかなノミのおとが見てとれる。建築家、山崎栄一さん(左)の家にはこのライオン

## 高達のライオン

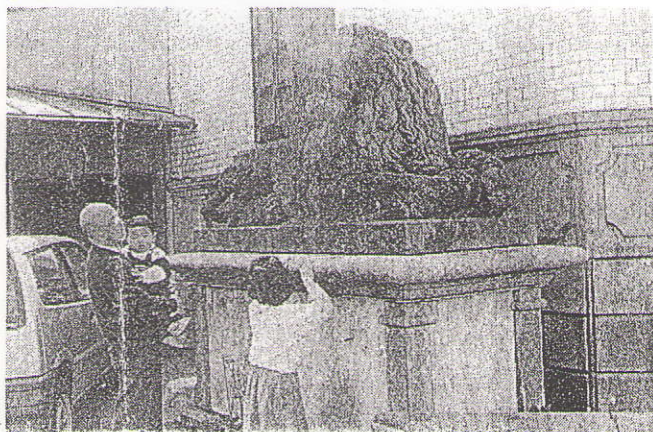
街の通りや片すみにちよっと気になるものがある。とりたててスゴイというモノではない。文化財なんかではさらさら

どあまり知らない。忙しい通り過ぎていたときは目に入りもしなかった。でも今は心のどこかにチャッカリ居座って個性をキラキラ輝かしている。この街も捨てたもんじゃない、そんな気にもさせてくれる小さな発見物をシリーズで紹介。

山崎栄一氏所蔵の写真。納品の記念に撮影されたと思われる



はなく、柏崎かどこかの石屋さんから取り寄せ、うちから高達さんに納めたとき「ライオン像は彫り上がったばかり。これから貨車に乗せられ直江津へ運ばれるのだから、鉄のたがをはめた車輪の大車に乗せられている。かたわらに立つのは三つ揃いのスーツに高いカラムの紳士。その誇らし気な表情からどうやらこの



貴重な明治の洋風建築、高達回漕店を守るライオン像。台座には大理石が張られている

## 「きょうの指針」

藤宮 親月(生まれた月による運勢)

- 1月 八方美人はかえって誤解のもと
- 2月 内ゲバの恐れあり。一家だんら
- 3月 疲労が心身を沈ませがちだ。ス
- 4月 ツイている。失敗を恐れず計画
- 5月 経費節減をモットーに。大きな
- 6月 社交面で多忙な日だ。明るさと
- 7月 交友関係にカケリが出ている。
- 8月 赤いバラにはトゲがある。もし
- 9月 早朝の電話や来客は大吉。雑誌
- 10月 旅行、遠出は方角が問題。西、
- 11月 話し合いが先決問題。意思の不
- 12月 神経の疲れと注意力減退が大ミ

# 直江津繁栄の名残

## 柏崎の鬼門封じ海にらむ名工の作

像の制作者らしい。写真台紙に印刷されている写真の名を頼りに柏崎市に絞って捜したところ「これはうちの伯父さんです。弟にあたる私の父とわり、ふたつだということから間違いない」という石材木社長が現れた。柏崎市桜木町の小川勝栄さん(左)。

作者の名は小川由廣(よしひろ)。明治十三年ころの生まれで八十歳過ぎまで元気だったといふ。家族や近しい人からは「ひげいちゃん」と呼ばれ、写真とおりのダンディー。柏崎では高名な石工(いしく)小川勝栄さん(いしく)とも評される。

三十歳を過ぎてから関西に修業に行き、四十歳代から活躍。龍や唐獅子の石彫をよくし、しかも西洋風のライオン像を得意とした。勝栄さんによれば柏崎市内にも十体近く大小のライオン像が散在し、遠くは北海道やカラフトにも売られたといっただけだ。ただし横向

いてしまったのです。高達の基礎を一代で築いた高橋達夫は明治の起業家らしく、愛憎な人だ。たらしいです。ね。ちよっとした石でも済む魔よけにこれだけの大き

今高達回漕店だけだが、この界隈には、かつて回船問屋がいらかを競いしんがの倉庫が続いた活気あるふる土地だ。海をにらむライオンは再び偉かなら直江津街役の活況を懐かしむように見える。(〇)

この石像、一説には制作費が二千円もしたといふ。当時までもな家が建つほどの高値。「それくらい高橋達夫にとってはさうでもない。なかつたんじゃないですか。直江津の海産物問屋の繁盛はすこかったですからね。」